

OB会長退任にあたって

2017年から6年間、日下部前会長の後を受けて、会長職を務めさせていただきました。もともと会長職が務まるような資質や能力を持ち合わせてはいない私ではありましたが、現役時代にOB会の皆様からの大きなご支援により第四回世界大学合唱祭に参加させていただいた、その恩義に応えたいという思いで、お引き受けさせていただきました。

就任当初、OB会の最大課題は現役人数の減少とそれを支えるOB会会費収入の減少でありました。加えて3年半前からはコロナの蔓延に伴い現役諸君やOB会活動にも大きな支障が出る事態となり、OBの皆様にはご苦勞をおかけすることになりました。一時は2年生以上が12名という危機的状況にありましたが、ようやく脱することができ、OB会の会費収入も改善の方向が見えてきました。

来年からはグリークラブ創立120周年、同志社創立150周年、OB会設立50周年の佳節が連続する大事な時期ではありますが、執行部の若返りは就任当初からの課題であり、信頼する森島新会長以下の執行部に、この残りの大きな目標を託すことといたしました。

在任中に私を支えてくださった、数多くの先輩OBや理事長以下、理事の皆様にご心よりの感謝を申し上げます。また、今回、私とともに退任いたしました村上副理事長、岡田事務局長におかれては、担当の職務に加えて、大学との窓口をはじめ、私の相談相手として大きな貢献をいただいたことに、この場を借りて重ねて感謝を申し述べたいと思います。

さて、在任中に実現したいと考えていたいくつかのことは、難事でもあり、私の力不足でもあって、後継の森島会長以下に託したいと思います。

そのひとつがOBの合唱団体としてのクローバークラブの「一体性」と「年齢を超えた心の交流」の復活です。OB合唱団が多様な形態をとることを否定するものではありませんが、OB会のもとでの協力の気持ちがさらに進展していくことを切に願うものであります。OB四連やOB会行事についても、取組の姿勢については厳しく求めつつも、老若OB会員の全員にて歌うことに大きな意義があり、合唱音楽の頂点を極める目的とは別の目的や意味があることをしっかり確認して進めて欲しいと考えます。

もうひとつは、歌っていないOB諸兄へのこれまで以上の取り組みも課題でした。コロナと現役関連で到底そこに注力できる状況では無かったですが、卒業後、合唱を続けることが出来るのは、職場環境や居住地の環境が整った恵まれたOB達で、OB全体の1~2割です。それ故、OB会は合唱を続けていないOBのことも十分に考慮しながら運営する必要があることも肝に銘じて運営していただければと思います。

私のできなかったことをお願いするのは恐縮ですが、退任にあたっての御礼とお願いをご挨拶に替えさせていただきます。

昭和50年卒 新井克次